



わかば

2018. 10. 13
第18-24号
文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

重点目標 一人一人が輝く教育 ～期待登校・満足下校～

小学部定期テスト、中高等学部の前期学力テストの結果(報告)・・・指導の充実に

9月7日に実施しました定期テストの結果をまとめましたので、過去三か年の経年結果とともに掲載し、ご報告いたします。(小学部：定期テスト平均、中高等部：前期学力テストの平均)

さて、毎年この時期に実施している本テストは、前期に学習した内容が理解され、定着しているかどうかを確認するためのテストです。小学部は、業者テストを使用して概ね高い点を得ていますので、各学年いずれも理解・定着していると判断することができます。

中高等部は、日本でも教師が中間テストや期末テストを作成して行うことが一般的です。その際の平均点は40～60点であることを考えると、本校の中高生はよく勉強していると言えます。

いずれも平均ですので、当然ながら個人レベルでは違いがあります。そのようなことを知ることが、教師にとって今後の指導の在り方、指導の充実に繋がります。

【2018年度 前期定期テスト結果 経年一覧表】

国語	平均点				算数・数学	平均点					
	2015	2016	2017	2018		2015	2016	2017	2018		
小学部	1年	94	95	93	92	小学部	1年	96	95	94	93
	2年	85	87	88	89		2年	88	88	89	89
	3年	80	87	79	78		3年	86	93	92	91
	4年	75	76	78	76		4年	84	86	90	89
	5年	81	79	81	79		5年	88	87	86	87
	6年	87	85	80	81		6年	91	90	88	86
中学部	1年	75	74	75	70	中学部	1年	74	75	78	75
	2年	79	67	79	74		2年	85	78	72	73
	3年	83	79	54	67		3年	78	80	60	62
高等部	1年	86	79	79	71	高等部	1年	65	66	67	50
	2年	70	71	73	73		2年	72	72	62	58
	3年	75	71	73	72		3年	59	72	62	80



数値を見比べながら、例えば「だいたい、同じぐらいで安定しているな」「ずいぶん下がったな」などと思われることでしょうか。毎年テストを実施していますが、一番の大きな違いは受ける子どもが毎年変わるということです。したがって、数値はあくまでも学力の傾向として見ていただければと思います。

教師にとっては、個々の児童生徒の学力が把握でき、これまでの指導の成果や課題、また今後の指導に反映することができるまたとない機会が、本テストの良さでもあります。

バザーご協力のお礼とご報告



9月15日に開催された日本人学校バザーに際し、保護者の皆様には、多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。わかば23号のバザーに関する作文のように、子どもたち一人一人が、しっかりとバザーを楽しみ、家族とともに喜んでいることがわかります。重ねて、感謝申し上げます。おかげさまで今回も昨年と同じように\$11,000に迫る収益をあげることができました。本収益金は、「より良い学校運営を実現するための資金」「学校授業用備品購入」「各種学校行事を実施するための費用」「借用校への寄付」等、として活用させていただきます。ありがとうございました。

児童生徒の作品紹介 18



今回は、4年の「カンジ—はかせの漢字しりとり」からの作品、5年の「明日をつくるわたしたち」からの提案文の続きをご紹介します。

校長 信國 寿敏



【四年】

商売 倍數 枢機 汽車 煮沸	カーステンズ 篤太朗	六五円 遠洋 八日	危機 鈴木 音瑛	記録 生気 記号	高温 音声	進行 森 万衣歌	初心 漢字 児童	録音 温度 土管	嶺山 桃
----------------------------	---------------	-----------------	----------------	----------------	----------	----------------	----------------	----------------	---------

因果応報 封建制度 土用 妖怪 怪談 断罪 罪人 認知	二宮 蓮	自由詩 文字 開門 司会 調子 市長 形容詞	市長 調子 司会 開門 文字 自由詩						
--------------------------------------------------	---------	------------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

【担任 ジンケ先生のコメント】
最後の漢字と同じ読み方の漢字で始まる熟語を、どんどんつなげていくという活動をしました。その際、漢字辞典、国語辞典を利用しました。
4年生から漢字辞典の使い方が導入され、漢字そのものというより、熟語の知識を増やしていく事が要求されるので、非常に有意義な活動だったと思います。

勉強 教室 失明 注意 医者 車輪 林道 同時 自由 優奈 名札 札所	急流 竜頭蛇尾 美辞麗句 驅逐 畜産 酸素	桑原 優奈	室井 和美
----------------------------------------------------------------------	--------------------------------------	----------	----------



いつもは作品を読みながら、作品に適したイラストを探したり、コメントを考えたりしていますが、さすがに今回は、イラストはどうかと悩みました。

さて、「ガンジー」ならぬ「カンジー」なのは、ガンジーを知る者でないとわからないなぞかけですが、しりとりは子どもになじみ深いものですので、結構楽しんで調べ活動をしたのかなと思います。調べ活動を通して、漢字や語彙を増やし、意味を理解していこうとする学習のねらいには最適な活動ではないでしょうか。ゲーム性のある活動は、子どもの望むところですので、素晴らしい実践だと思います。二週続けて作品やコメントを提供いただき、ありがとうございました。

【五年 提案文】

「宿題が多い」

渡辺 泰蔵



いつも遊ぶことは大事だと思います。それで、宿題が多いからあまり遊べなくなります。だから、ぼくは宿題を少なくする案を提案します。

ぼくの学校では、宿題がいっぱいあります。いつも学校から帰った次の日、一日中宿題をしています。それで、遊ぶ時間がなくなります。それでいつもつかれます。だから、宿題を少なくする提案をします。

宿題を少なくするのに、授業の時間を少し短くして、授業の時間が終わったあとに三十分ぐらい宿題をする時間にしたらいいと思います。

なぜかと言うと、こうすると、家で宿題をする分がへるし、わからないところを先生に質問できるからです。家でする宿題がへって、もっと遊べるようになります。

ぼくは、こうしたらいいと提案します。

【五年 提案文】

「休み時間をわけよう」

タニー 美麗



「休み時間をわけよう」ということについての提案書を紹介します。

わたしたちの学校では、休み時間がばらばらになっています。たとえば先生が、

「はい、五分休みだよ」

と言って、みんなが急いでトイレとか水のみなどをするのに時間がかかると思います。そして、おべんとうの時間がいっぱいあまってこまります。

どうやってなおすかという、おべんとうの時間を二十分ぐらいとって、一時間め、二時間め、三時間め、四時間め、と五時間めにわけたらいいと思います。

今、この学校では、休み時間を朝と昼の授業にたしてほしいです。



【五年 提案文】

「部活動」

笹尾 まい

私は、補習校に部活動がないのは問題だと思います。部活動があった方がいいということについて、具体的な案を提案します。

1 提案する理由

私たちの補習校には部活動がない。でも、日本の学校には部活があります。私は、休み時間以外にも、他の学年の生徒とふれあう機会があるべきだと考えています。ですが、二つ問題があります。補習校は国語と算数を約6, 7時間で一週間分教えるだけで精いっぱい、部活を教える時間がありません。そして、コーチや先生がいないのも問題です。

2 具体的な提案

毎週配布するわかばに部活動の先生をぼしゅうするページを作ります。そして、スポーツ用品などを買って部活を始めます。

3 部活があればどんないいことがあるか。

部活があると、放課後すぐに、好きなことに打ち込めます。また、他の学年の先輩、後輩たちとの関わりが深まります。他の学年の人と仲良くなって、人間関係が広がって行って、学校に来るのが楽しみになるのではないのでしょうか。

他の学年の人との関わる機会は、休み時間や学芸会以外ほぼ全くありません。そこで、「人間関係を広める」という点でこのことを提案します。





今年のキーワードは「期待登校・満足下校」です。そのことを具体化する提案を子どもたちなりに考えていることや、「ぼくの学校」「わたしたちの学校」の言葉から、愛校心を強く感じます。

保護者も教師(学校)も読みながら、子どもたちの心の内を見る思いでしょう。現状と現実を踏まえながらも願い、思いを基に丁寧に提案していることに感心します。

子どもたちの声に、「わかりました」とすぐに答えられず、校長イラストも小さくなってます。
[五年の皆さんへ] 提案文、ありがとうございます。

宿題や休み時間の提案は、時間割や授業時間の使い方の修正をすれば可能な提案です。また、部活動の提案は、よりよい人間関係づくりからのよき提案だと思います。どの提案も、教育委員会の了解を得るなどの丁寧な対応が必要ですね。特に、部活動は、「特別活動(小学校)」なので、国語や算数(数学)だけの本校で実現していくには、まずは、学校規約の見直し、改定から始めなくては いけませんね。皆さんの心の声(提案)に、少しでも近づくことができればと思っています。

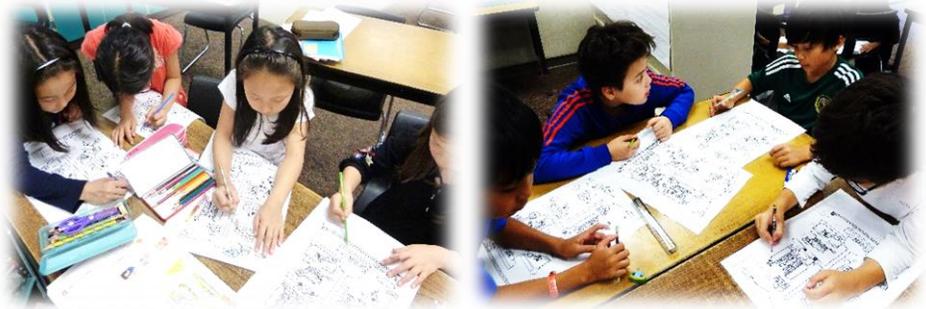
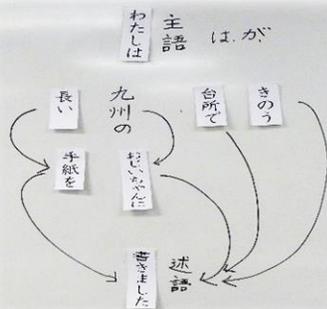
「いつ」「どこで」「何を」「だれに」などの修飾語の学びから・・・3年生 国語科学習

主語の「わたし」、述語の「書きました」の間に入る言葉が修飾語です。例えば、「きのう」「九州の」「おじいちゃんに」「手紙」です。

写真は、この学びを生かして、与えられたプリントの絵から想像力を発揮して、主語、修飾語、述語の文を書いているところです。

同じプリントですが、それぞれの個性が発揮された文章になったり、二人や三人、四人でストーリーを考えたりしながら、楽し気に書いていました。

「なんでもいいから、主語、述語、修飾語のある文を書きましょう」では、子どもは書きにくいものがありますが、このようなプリントのイラストがあれば、進んで書いていきます。



カードを使った板書

修飾語を活用した文章を書く子どもたち※写真掲載の了解を得ています。

1平方メートル(1㎡)にこんなに乗れるんだ!・・・校長授業参観から(4-2 ジンケ学級)

10月6日、「面積のはかり方と表し方」の学習を参観しました。㎡、km²、a、haなどの面積についての単位の理解と量感を豊かにすることがねらいです。

工夫点は、実際に用意した1㎡の紙にどれだけの子が乗れるか予想し体感したこと。また、グーグルを使ったなじみのある学校の運動場やサッカー場、ポートランドの空撮映像を見せ、意欲と量感を高めたことです。「まるで東京の満員電車だ」「うちの広さはどのくらいかな」などのつぶやきがありました。



乗れるかな?→18人乗れた!※写真掲載の了解を得ています